

平成19年
3月26日

病害虫発生予報 4月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

| | |
|----------------------|---|
| ナシ：黒星病 | 1 |
| イチゴ：うどんこ病，ハダニ類 | 1 |
| 促成キュウリ：うどんこ病，べと病，褐斑病 | 2 |

| | |
|---|---|
| 【その他の病害虫】 | 3 |
| 麦類，春レタス，イチゴ，促成・半促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ，メロン | |

II. 病害虫ミニ情報

| | |
|-----------------|---|
| 麦類の赤かび病防除対策について | 5 |
| 水稻の育苗箱施薬について | 6 |
| 農薬登録速報(2月)の概要 | 9 |

III. 今月の気象予報

IV. テレホンサービス

029(226)5321, 6131

本文に記載された農薬の登録内容は、平成19年3月7日現在のものです。
農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用基準、注意事項等を確認してください。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。
茨城県病害虫防除所 Tel:029-227-2445
予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

ナシ

1. 黒星病

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| 早い | 平年並 | 県下全域 |

[予報の根拠]

- ① 平成 18 年 10 月下旬の調査で、ナシ黒星病秋病斑の発病度及び発生地点率は平年並で、ナシ黒星病菌の越冬量は平年並と予想される。

[防除上注意すべき事項]

- ① りん片脱落直前のインダーフロアブルおよび落花期のスコア水和剤 10 は、黒星病を防除する上で特に重要である。防除暦を参考に、適期に確実に薬剤防除を実施する。
- ② 防除適期を把握するため、圃場をよく観察し、ナシの生育に合わせて防除を行う。
- ③ 薬剤散布は、10a 当たり 300ℓを目安に、かけむらのないよう丁寧に行う。薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

イチゴ

1. うどんこ病

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| — | 多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

- ① 3 月下旬現在、発病葉率、発病果率、発生地点率ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 罹病した葉や果実などは、ハウス内に放置せずにハウス外へ持ち出し土中深く埋める。
- ② 薬剤は、収穫前日数等に注意し、葉裏や葉柄にもよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。
- ③ 曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。
- ④ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

2. ハダニ類

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| — | 多い | 県下全域 |

(イチゴ ハダニ類 続き)

[予報の根拠]

- ① 3月下旬現在, 被害葉率, 発生地点率ともに平年より高い。
- ② 今後気温の上昇に伴い, ハウス内は発生を助長する条件になりやすい。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難となるため, 発生の少ないうちに防除する。
- ② 薬剤散布にあたっては, 下葉を取り除き, 葉裏や葉柄にもよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。
- ③ 薬剤抵抗性ハダニの出現を防ぐため, 同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

促成キュウリ

1. うどんこ病

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|-----|------|
| — | 多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

- ① 3月下旬現在, 発病葉率, 発生地点率ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① まん延すると防除が困難となるため, 発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は, 十分な量で丁寧に散布する。また, 耐性菌の出現を防ぐため, 同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

2. べと病

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|------|------|
| — | やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

- ① 3月下旬現在, 発病葉率は平年並で, 発生地点率は平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハウス内が高温多湿になると発生しやすくなるので, 十分に換気しハウス内を除湿する。
- ② まん延すると防除が困難となるため, 発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ③ 薬剤は, 十分な量で丁寧に散布する。また, 耐性菌の出現を防ぐため, 同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

3. 褐斑病

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|------|------|
| — | やや多い | 県下全域 |

(促成キュウリ 褐斑病 続き)

[予報の根拠]

- ① 3月下旬現在，発病葉率，発生地点率とも平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件下での伝染力が高いため，十分に換気しハウス内を除湿する。
 ② 発生が少ないうちに，防除を徹底する。
 ③ 新たな伝染源とならないよう，病斑部は取り除いてハウス外に持ち出し処分する。
 ④ 薬剤は，十分な量で丁寧に散布する。また，耐性菌の出現を防ぐため，同一薬剤及び同系統薬剤の連続散布は行わない。

(平成 18 年度農業総合センター主要成果参照)

薬剤散布の際は，周辺作物等への飛散（ドリフト）に十分注意して行うこと。

【その他の病害虫】

| 作物 | 病害虫名 | 発生予想 | 発生概況及び注意すべき事項 |
|----------------|----------|--------------------|---|
| 水稲 | イネミズゾウムシ | 発生時期：やや早い | 活動開始時期は平年よりやや早いと予想される。活動開始が早いと移植直後から加害され，被害がでる場合がある。育苗箱施薬をしていない水田では発生に注意する。 |
| 麦類 | 赤かび病 | 発生時期：やや早い 発生量：－ | 大麦は穂揃期，小麦は開花期（出穂後 7～10 日頃）が防除適期であるので，適期に必ず薬剤散布を行う。(P.5 病害虫ミニ情報参照) |
| | 縞萎縮病類 | 発生量：－ | 3月下旬現在，発生地点率は平年より高い。 |
| 春レタス | 菌核病 | 発生量：やや多い | 3月下旬現在，平年よりやや多い発生である。発生を認めた場合は，菌核が圃場に残らないよう発病株を抜き取り，圃場外へ持ち出す。 |
| イチゴ | 灰色かび病 | 発生量：平年並 ～やや多い | 3月下旬現在，平年よりやや多い発生である。 |
| | コナジラミ類 | 発生量：平年並 | 3月下旬現在，平年並の発生である。今後は，気温の上昇に伴い増加するので注意する。 |
| 促成・半促成 ピーマン | アザミウマ類 | 発生量：平年並 ～やや多い | 3月下旬現在，平年並の発生ある。 |

| 作物 | 病害虫名 | 発生予想 | 発生概況及び注意すべき事項 |
|-------------|---------------|------------------|-----------------------|
| 促成 トマト | 灰色かび病 | 発生量：平年並 ～やや多い | 3月下旬現在，平年よりやや多い発生である。 |
| 促成 キュウリ | 菌核病 | 発生量：やや多い | 3月下旬現在，平年よりやや多い発生である。 |
| | タバココナジ ラミ類 | 発生量：やや多い | 3月下旬現在，平年よりやや多い発生である。 |
| メ ロ ン | べと病 | 発生量：平年並 ～やや多い | 3月下旬現在，平年よりやや多い発生である。 |
| | つる枯病 | 発生量：平年並 ～やや多い | 3月下旬現在，平年よりやや多い発生である。 |
| | ハモグリバエ 類 | 発生量：やや多い | 3月下旬現在，平年よりやや多い発生である。 |

トマト黄化葉巻病について

- ① トマト黄化葉巻ウイルスは，現在促成ハウス内の罹病株や，保毒したタバココナジラミ類に存在すると考えられる。このため，今後の感染拡大を防ぐためには，保毒虫をハウスから野外に出さないことが最も重要となる。
- ② 今後気温の上昇にともない，罹病株の症状が現れやすくなるとともに，タバココナジラミ類も増加するため注意が必要である。

[防除対策]

- ① 発病が認められた株は，感染源となるため早期に抜き取り，ビニール袋に入れて密封し，株を枯死させてから処分する。
- ② タバココナジラミ類は，発生が多くなると防除が困難となるため，黄色粘着板を利用するなどして発生に注意し，初期防除に努める。なお，薬剤散布にあたっては，薬剤抵抗性の発達を抑えるため同一系統薬剤の連続散布は行わない。
- ③ タバココナジラミ類は葉裏に寄生するため，薬液は下方から吹き上げるように散布する等，葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。
- ④ タバココナジラミ類の生息場所となるハウス内外の除草を徹底する。
- ⑤ ハウスの開口部に設置が可能な場合は，防虫ネット（0.4mm目合い）を設置し，タバココナジラミ類の外部への飛び出し及び，外部からの飛込みを防止する。なお0.4mm目合いの防虫ネットを設置した場合，通気性が低下し，灰色かび病等，病害の発生が助長されたり，ハウス内の温度が高くなったりすることが予想されるので，遮光資材の利用やダクト通風，サイドの開閉等，温湿度管理には十分注意する。

II. 病害虫ミニ情報

麦類の赤かび病防除対策について

赤かび病は、麦の収量や品質を低下させる大きな原因となります。また、本病原菌はデオキシニバレノール（DON）等のかび毒を産生するため、農産物検査規格における赤かび粒混入率の許容値は0.0%と厳しく設定されています。麦の民間流通への移行などに伴い、これまで以上に生産安定や品質向上が求められており、赤かび病防除は不可欠です。

本病原菌は、麦の開花期から10日程度の間が最も感染しやすく、この期間に降雨が続き、気温が20℃以上になると発生が多くなります。昨年は、5月第2半旬以降に曇雨天が多く、感染を助長する条件が続いたため、六条大麦や小麦で平年より多く発生しました。

本年は、今後の気象や麦の生育状況などに注意するとともに、表1を参考に必ず防除を実施してください。なお、本病に対する薬剤防除の適期は、大麦では穂揃期、小麦では開花期（出穂後7～10日）です。出穂期予測などの情報をもとに防除計画を立て、効果的な薬剤散布を行うことが重要です。また、発病の好適条件が続く場合などは、1回目の散布後7～10日に2回目の散布を行います。ただし、薬剤によっては出穂後1回しか使用できないものもあるので注意してください。

表1 赤かび病に登録のある主な薬剤（平成19年3月7日現在）

| 薬剤名 | 希釈倍数 | 収穫前日数 -本剤の使用回数 | 対象作物 | 有効成分-有効成分の 総使用回数 |
|------------|--------------|-------------------|-----------|---|
| トップジンM水和剤 | 1,000～1,500倍 | 30-3(出穂期以降は1) | 麦類(小麦を除く) | チオファネートメチル-3(種子への処理は1, 出穂期以降は1) |
| | | 14-3(出穂期以降は1) | 小麦 | |
| ベルコート水和剤 | 1,000～2,000倍 | 21-3(出穂期以降は1) | 小麦 | ミノクタジン-4(種子への処理は1, 散布及び無人ヘリ散布は合計3, 出穂期以降は1) |
| ベフラン液剤25 | 1,000～2,000倍 | 21-3(出穂期以降は1) | 小麦 | ミノクタジン-4(種子への処理は1, 散布及び無人ヘリ散布は合計3, 出穂期以降は1) |
| ストロビーフロアブル | 2,000～3,000倍 | 14-3 | 麦類 | クレタキシムメチル-3 |
| コロナフロアブル | 400倍 | --5 | 麦類 | 硫黄-5 |
| チルト乳剤25 | 1,000～2,000倍 | 3-3 | 小麦 | プロピコナゾール-5(根雪前は2, 春期以降は3) |
| | 8倍(無人ヘリ散布) | 7-3 | | |
| | 1,000～2,000倍 | 21-1 | 大麦 | プロピコナゾール-1 |
| 8倍(無人ヘリ散布) | | | | |

※ 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ使用してください。

水稻の育苗箱施薬について

育苗箱施薬は、本田での散布に比べて作業は簡便で省力的です。しかし、病害虫が発生する前に薬剤を施用するため、発生しなかった病害虫に対して薬剤を処理した場合は、結果的に過剰な防除となります。また、効果の持続期間が長く、対象病害虫が多い薬剤は高価です。このため、これまでの病害虫の発生状況を考慮したうえで、適切な薬剤を選択して下さい。

1. 薬剤の選択

育苗箱施薬は、イネミズゾウムシ等、水稻の生育初期に発生する害虫や、いもち病を防除できます。さらに、穂いもちの発生まで抑制できる薬剤もあります。薬剤を選択する際は、表 1～3 を参考に、病害虫の発生状況に合わせて薬剤を選択して下さい。なお、播種時や緑化期に施用できる薬剤もあり、作業体系に応じて選ぶこともできます。

2. 使用方法

田植前に散布する場合は、葉が濡れていると薬害を生じやすいので、露を払い落とした後に、専用の計量箱か散布器を用いて所定量を均一に散布して下さい。その後葉に付着した薬剤は払い落とし、軽く散水して育苗土に落として下さい。は種前に使用する場合は、床土に均一に混和します。この際に余った床土は河川や水路に捨てずに適正に処理して下さい。は種時に使用する場合は、は種・かん水後、所定量を均一に散布し、覆土します。

3. 使用上の主な注意点

- ① 軟弱徒長苗、ムレ苗、田植え適期を過ぎた老化苗は、薬害を生じやすいので使用を控えてください。育苗中は温度管理、水管理に留意して、健苗育成を心がけてください。
- ② 薬量不足や、散布ムラがあると防除効果が低下するため、所定量を丁寧に散布して下さい。
- ③ 水田の整地、代かきはていねいに行い、田植後に田面が露出しないようにして下さい。

各薬剤の使用については、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項を確認のうえ使用して下さい。なお、後作に薬害が発生したり、意図しない農薬が吸収される可能性があるため、薬剤の処理及びその後の育苗管理は、他の農作物を栽培する場所では行わないでください。

4. 主な病害虫の防除のポイント

育苗箱施用剤を使用しても、病害虫の発生期間が長引いた場合は、追加防除が必要です。薬剤による防除だけではなく、適正な施肥や、的確な中干し等を行って、イネを健全に生育させてください。さらに、以下のことも参考に病害虫の抑制に有効な手段を取り入れ、総合的に病害虫を管理していくことが大切です。

- ・ イネミズゾウムシ：成虫の発生盛期は5月下旬～6月上旬です。湛水状態は成・幼虫の活動に適するため、中干し、間断かんがい等、適正な水管理に努めて下さい。
- ・ イネドロオイムシ：加害の主体である幼虫は、6月上旬頃から発生し、6月が低温多雨であると発生が多くなります。田植後1か月程度経過してからが加害のピークとなるため、効果の持続期間が長い薬剤が適しています。
- ・ 紋枯病：越冬した菌核が代かき時に水面に浮上し、イネの株元に付着して伝染源となります。代かき時に水尻や畦畔沿いの浮遊物は除去して下さい。
- ・ いもち病：窒素の過剰な施用は、いもち病の発生を助長します。適正な施肥を行って下さい。

表1 主な対象病害虫と薬剤の使用例

| 対象病害虫 | 薬剤の使用例 (表3掲載の薬剤より) |
|--|---|
| 葉いもち | フジワン粒剤, オリゼメート粒剤 |
| 葉いもち + 穂いもち | ウィン箱粒剤, デラウス粒剤, デジタルコラトップ箱粒剤 嵐箱粒剤 |
| 葉いもち + 穂いもち + 紋枯病 + イネミズゾウムシ + イネドロオイムシ | ウィンアドマイヤーグレータム箱粒剤 |
| 葉いもち + 穂いもち + イネミズゾウムシ + イネドロオイムシ | ウィンアドマイヤー箱粒剤, Dr. オリゼプリンス粒剤6 デラウスプリンス粒剤06, ジャッジ箱粒剤, 嵐ダントツ箱粒剤, 嵐プリンス箱粒剤6 |
| 葉いもち + イネミズゾウムシ + イネドロオイムシ | フジワンプリンス粒剤 |
| イネミズゾウムシ | ガゼット粒剤, オンコル粒剤5, バダン粒剤4 |
| イネミズゾウムシ + イネドロオイムシ | アドマイヤー箱粒剤(使用量は育苗箱一箱あたり50gとして下 さい), プリンス粒剤 |
| イネドロオイムシ | アドマイヤー箱粒剤, プリンス粒剤 |

表2 育苗箱施薬剤の農薬使用基準・対象病害虫 (平成19年3月7日現在)

| 薬剤名 (一般名) | 使用基準 | | 対象病害虫 | | | | | | | | | | | 薬 剤 系 統 | 参 考 事 項 | |
|---------------------------|-----------------------|---------------------------|------------------|--------------------------------------|--|----------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|------------------|---------------------------------|-----------------------|----------------------------|--------------------------------------|---|----------------------------|---------------------------------|
| | 使用時期 - 回数 | 使用量 (育苗箱 一箱当 たり) | い も ち 病 | イ ネ ミ ズ ゾ ウ ム シ | イ ネ ヒ メ ハ モ グ リ バ エ | イ ネ ソ ウ ム シ | イ ネ ド ロ オ イ ム シ | ヒ メ ト ビ ウ ン カ | ウ ン カ 類 | ニ カ メ イ チ ユ ウ | イ ネ ナ ゴ 類 | イ ネ ツ ト ム シ | ツ マ グ ロ ヨ コ バ イ | | | そ の 他 の 病 害 虫 |
| 嵐ダントツ箱粒剤 | 移植3日前～移植 当日 - 1 | 50g | | | | | | | | | | | | 紋枯病 | スト +ネオニ | B |
| 嵐プリンス箱粒剤6 | 播種時(覆土前) ～移植当日 - 1 | 50g | | | | | | | | | | | | 紋枯病 | スト + - | C |
| ウィンアドマイ ヤー箱粒剤 | 移植2日前～当日 - 1 | 50g | | | | | | | | | | | | 白葉枯病, イネアザミウマ | メラニ +ネオニ | B |
| | 移植当日 - 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ウィンアドマイ ヤーグレータム 箱粒剤 | 移植2日前～当日 - 1 | 50g | | | | | | | | | | | | 紋枯病 | メラニ +酸アミ +ネオニ + - | B |
| ジャッジ箱粒剤 | 移植前3日～移植 当日 - 1 | 50g | | | | | | | | 代(第 1世) | | | | セジロウソカ, もみ枯細菌 病, イネシシ ガレセンチュウ, 白葉枯病 | プロバ +カーハ | 劇 B-s |
| フジワンプリンス 粒剤 | 緑化期～移植当 日 - 1 | 50g | | | | | | | | | | | | コブノメイガ | イフ + - | C |
| | 移植前3日～移植 当日 - 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| Dr. オリゼプリ ンス粒剤6 | 緑化期～移植当 日 - 1 | 50g | | | | | | | | | | | | もみ枯細菌 病, 白葉枯 病 | プロバ + - | C |
| デラウスプリ ンス粒剤06 | は種前 - 1 | 50g | | | | | | | | | | | | | メラニ + - | C |
| | は種時(覆土前) ～移植当日 - 1 | | | | | | | | | | | | | | | |

(注) C:成分の魚毒性で剤の魚毒性ではない。

表3 育苗箱施薬剤の農薬使用基準・対象病虫害(平成19年3月7日現在)

| 薬剤名 (一般名) | 使用基準 | | 対象病虫害 | | | | | | | | | | | 薬剤系統 | 参考事項 | |
|-----------------|--------------|-----------------------|----------|----------------------|----------------------------|---------------------|----------------------|---------------------|------------------|---------------------------------|------------------|----------------------------|--------------------------------------|-------------|------|---------------------------------|
| | 使用時期 - 回数 | 使用量 (育苗箱 一箱当たり) | いも ち病 | イネ ミズ ゾウ ムシ | イネ ヒメ ハモ グリ バエ | イネ ソウ ウム シ | イネ ドロ オイ ムシ | ヒメ トビ ウン カ | ウ ン カ 類 | ニ カ メ イ チ ユ ウ | イ ナ ゴ 類 | イ ネ ツ ト ム シ | ツ マ グ ロ ヨ コ バ イ | | | そ の 他 の 病 害 虫 |
| 殺菌剤 | 嵐箱粒剤 | 播種時(覆土前)~移植当日-1 | 50g | | | | | | | | | | | 紋枯病 | ストロ | B |
| | ウィン箱粒剤 | は種時~移植当日-1 | 50g | | | | | | | | | | | | メラニン | B |
| | オリゼメート粒剤 | 移植3日前~移植前日-1 | 20~30g | | | | | | | | | | | 白葉枯病,もみ枯細菌病 | ブロバ | B |
| | フジワン粒剤 | 苗の緑化期~移植直前-3 | 50~75g | | | | | | | | | | | | イフ | B |
| | デラウス粒剤 | 播種前-1 | 50g | | | | | | | | | | | | メラニン | B |
| | | 播種時(覆土前)~移植当日-1 | 50g | | | | | | | | | | | | | |
| デジタルコラトップ箱粒剤 | 移植3日前~移植当日-1 | 50g | | | | | | | | | | | | メラニン | | |
| 殺虫剤 | アドマイヤー箱粒剤 | 移植2日前~移植当日-1 | 50g | | | | | | | | | | | ネオニ | | |
| | | | 50~80g | | | | | | | | | | イネアザミマ | | | |
| | オンコル粒剤5 | 移植前3日~移植当日-1 | 30~60g | | | | | | | | | | イネハモグリバエ | カーハ | 劇B-s | |
| | | | 60g | | | | | | | | | | イネシガラセンチュウ | | | |
| | ガゼット粒剤 | 移植前3日~移植当日-1 | 40~70g | | | | | | | | | | | カーハ | 劇B-s | |
| | | | 70g | | | | | | | | | | イネシガラセンチュウ | | | |
| | パダン粒剤4 | は種前又は移植当日-1 | 50~100g | | | | | | | | | | イネハモグリバエ,コブノメイガ | ネライ | 劇B-s | |
| | | | 60~100g | | | | | | | | | | スクミリンゴガイ | | | |
| | | | 80~100g | | | | 幼虫 | | | | | | | | | |
| | プリンス粒剤 | は種前-1 | 50g | | | | | | | | | | コブノメイガ | - | C | |
| は種時(覆土前)~移植当日-1 | | | | | | | | | | | コブノメイガ | | | | | |
| 移植前3日~移植当日-1 | | | | | | | | | | | イネアザミマ,フタヒコヤガ | | | | | |

(注) C:成分の魚毒性で剤の魚毒性ではない。

※ 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ使用してください。

農薬登録速報（2月）の概要

平成19年2月期間中（2/1～2/28）に新規・変更登録等のあった農薬は、以下のとおりです。
なお、農薬の使用にあたっては、必ずラベル等を確認してください。

○ 殺虫剤・殺菌剤・殺虫殺菌剤・殺そ剤等

新規> BASF嵐スタークル粒剤， STアクテリック乳剤， STパスポートフロアブル， TDエース粒剤， あめんこ， イモチエーススタークル粒剤， エコホープDJ， シードラック水和剤， シンジェンタ トライアンフ水和剤， スミフェート水溶剤， スミフェート粒剤， トライアンフ水和剤， バイエルイモチエーススタークル粒剤， バイオリサ・マダラ， フェニックス顆粒水和剤， ブラシキラップ粉剤DL， フローラガードAL， ボーベリアン， ホクコーイモチエーススタークル粒剤， ホクコーカスラブキラップフロアブル， ホクコーラブサイドバリダキラップ粉剤DL， 協友スミチオン水和剤40， 協友マラソン乳剤50， 日曹フェニックス顆粒水和剤， 日曹ラービン水和剤75， 日農アクテリック乳剤， 嵐スタークル粒剤

変更> STDDVP乳剤， アグロスダイアジノン水和剤34， アグロスリン乳剤， エコメイト， オルトラン水和剤， オンコル粒剤5， ガーデンガードAL， カスケード乳剤， カスミンボルドー， カッパーシン水和剤， カルホス乳剤， カンタスドライフロアブル， キノンドー水和剤40， クミアイDDVP乳剤50， クミアイアグロスリン乳剤， クミアイコサイドDF， クミアイトレボン乳剤， クレハDDVP50%乳剤， クレハラブサイドスタークル粉剤DL， クロルピクリン錠剤， コサイドDF， サンケイDDVP乳剤50， サンケイトレボン乳剤， シンジェンタ・トレボン乳剤， スターナ水和剤， ストロビーフロアブル， ティベック， デス， ドイツボルドーA， ドキリンフロアブル， トップジンMゾル， トリフミン水和剤， トレボン乳剤， バイオキパー水和剤， バリアード顆粒水和剤， パンソイル乳剤， ピリカット乳剤， フルピカフロアブル， ホクコーDDVP乳剤50， ホクコーオルトラン水和剤， ホクコーカスラブスタークル粉剤DL， ホクコースマレックス水和剤， ホクコーダイアジノン水和剤34， ホクコートップジンMゾル， ホクコーラブサイドスタークル粉剤DL， ホクコー撒粉ボルドー粉剤DL， ホストキシン， ホストキシン小型錠剤， ボルドー， モスピラン水溶剤， ヤシマDDVP乳剤50， ヤシマスターナ水和剤， ヤシマダイアジノン水和剤34， ヤシマトリフミン水和剤， ラピック， ラリー水和剤， リドミルMZ水和剤， リドミル水和剤， リドミル銅水和剤， 一農DDVP乳剤50， 協友スターナ水和剤， 三共アタブロン乳剤， 三共コサイドDF， 三共ダイアジノン水和剤34， 三共トレボン乳剤， 三共バリアード顆粒水和剤， 三共フロンサイド粉剤， 住化スマレックス水和剤， 石原アオバ液剤， 石原アタブロン乳剤， 石原トリフミン水和剤， 石原ネマトリンエース粒剤， 石原ネマトリン粒剤， 石原フロンサイド粉剤， 日産ストロビーフロアブル， 日産トレボン乳剤， 日産バイオキパー水和剤， 日曹カンタスドライフロアブル， 日曹ストロビーフロアブル， 日曹ホスピット乳剤， 日農DDVP乳剤， 日農アグロスリン乳剤， 日農スマレックス水和剤， 日農ダイアジノン水和剤34， 日農モスピラン水溶剤， 日農リドミル銅水和剤， 日本化薬ダイアジノン水和剤34， 武田DDVP乳剤， 有機リドミルMZ水和剤

○ 除草剤等

新規> キングロードL液剤， キングロード液剤， クサオールH液剤， クサオール液剤， クサキールFG， クサダウンロング粒剤， クサリウム， グリーンケアG顆粒水和剤， ソクガレ微粒剤， ロングワイド粒剤， 草ぼうず

変更> アグロマックス水和剤， ウリホスフロアブル， ウリホス粒剤15，

エイトアップ液剤，クサトリエースLフロアブル，グリホエクス液剤，
ゴーゴーサン乳剤30，コワーク乳剤，コンパカレール液剤，サンフーロン液剤，
デュール乳剤，ハーブ・ニート液剤，バイエルイノーバDXアップフロアブル，
ハイフウノン液剤，プリグロックスL，マイゼット，ラウンドアップハイロード，
三共クサトリキング，石原MCPソーダ塩，石原アージラン液剤，日産MCPソーダ塩

○ 展着剤

新規>Y-ハッテン

○ 失効農薬

T-7.5スミグリーン乳剤，TGビバテル粒剤，アプロードスミラブサイド粉剤DL，
アシルメート液剤AL，カダン石灰硫黄合剤，カヤフォス粒剤5，
キングマラソン乳剤50，クミアイカヤフォス粒剤5，クミアイビーム顆粒水和剤，
クムラス，サポート水和剤，サンケイダイアジノン微粒剤F，スタム乳剤35，
ダイアジノン微粒剤F，チバガイギー・パデホープ1キロ粒剤，バンダリー水和剤，
ホクコーEPN粉剤1.5，ホクコーエルサン水和剤40，
ホクコーカスエルバッサ粉剤DL，井筒屋ダイアジノン微粒剤F，
井筒屋ナツマシ97，阪急共栄ナメクジ駆除剤，三共カヤフォス粒剤5，
三共バサグラン粒剤（ナトリウム塩），大塚バンダリー水和剤，日産イカルガ35SC，
日産ドウジェット，日農エルサン水和剤40，日農ドキリン水和剤50，
日農ヒエトップ粒剤

※ 農薬の登録失効は，同一成分の農薬においても販売メーカー毎になりますので，ご注意願います。

Ⅲ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 3月24日から4月23日)

気象庁(平成19年3月23日 発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

| 要素 | 予報対象地域 | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) |
|------|--------|---------|-----|--------|
| 気温 | 関東甲信全域 | 20 | 40 | 40 |
| 降水量 | 関東甲信全域 | 40 | 30 | 30 |
| 日照時間 | 関東甲信全域 | 20 | 40 | 40 |

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率ともに40%です。日照時間は平年並または高い確率ともに40%です。

<1週目の予報> 3月24日(土曜日)から3月30日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率70%

<2週目の予報> 3月31日(土曜日)から4月6日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率ともに40%

<3週目から4週目の予報> 4月7日(土曜日)から4月20日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率40%

Ⅳ. テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号: 029 (226) 5321, 6131

4月上旬 果樹病害虫の防除対策について

4月下旬 麦類の赤かび病防除対策について(1)

5月上旬 麦類の赤かび病防除対策について(2)